

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人

小林 英一



殿

あて名

〒273-0005

千葉県船橋市本町6丁目1番7号 エスペラ
ンサK4階 小林特許事務所

PCT/JP03/13426

SA202

P C T

10 MAY 2005

調査用写しの受理通知書

(法施行規則第39条)
〔PCT規則25.1〕

発送日（日、月、年）

04. 11. 03

| | | | |
|--------------------------|----------------------------|--------------------------|--|
| 出願人又は代理人 の書類記号 | KG150001 | 重 要 な 通 知 | |
| 国際出願番号 PCT/JP03/13426 | 国際出願日（日、月、年） 21. 10. 03 | 優先日（日、月、年） 15. 11. 02 | |
| 出願人（氏名又は名称） 中島 律雄 | | | |

1. 国際調査機関と受理官庁が同一の機関でない場合、

国際出願の調査用写しを国際調査機関が下記の日に受理したので通知する。

国際調査機関と受理官庁が同一の機関である場合、

国際出願の調査用写しを下記の日に受理したので通知する。

04 日 11 月 03 年 (受理の日)

2. 調査用写しには、コンピューター読み取りが可能な形式によるヌクレオチド又はアミノ酸の配列表が添付されている。

3. 国際調査報告の作成期間

国際調査報告の作成期間は、上記受理の日から3箇月の期間又は優先日から9箇月の期間のいずれか遅く満了する期間である。

4. この通知書の写しは、国際事務局及び上記1の第1文が適用される場合には受理官庁に送付した。

名称及びあて名

日本国特許庁 (ISA/JP)
郵便番号 100-8915 TEL 03-3592-1308
日本国東京都千代田区霞が関三丁目4番3号
様式PCT/ISA/202 (1998年7月)

権限のある職員

特許庁長官

特許協力条約

PCT

国際調査報告

(法8条、法施行規則第40、41条)
〔PCT18条、PCT規則43、44〕

10 MAY 2005

| | | |
|-------------------------------|---|-------------------------|
| 出願人又は代理人 の書類記号 KG150001 | 今後の手続きについては、国際調査報告の送付通知様式(PCT/ISA/220)及び下記5を参照すること。 | |
| 国際出願番号 PCT/JP03/13426 | 国際出願日 (日.月.年) 21.10.03 | 優先日 (日.月.年) 15.11.02 |
| 出願人(氏名又は名称) 中島 律雄 | | |

国際調査機関が作成したこの国際調査報告を法施行規則第41条(PCT18条)の規定に従い出願人に送付する。
この写しは国際事務局にも送付される。

この国際調査報告は、全部で 3 ページである。

この調査報告に引用された先行技術文献の写しも添付されている。

1. 国際調査報告の基礎
 - a. 言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願がされたものに基づき国際調査を行った。
 - この国際調査機関に提出された国際出願の翻訳文に基づき国際調査を行った。
 - b. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際調査を行った。
 - この国際出願に含まれる書面による配列表
 - この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
 - 出願後に、この国際調査機関に提出された書面による配列表
 - 出願後に、この国際調査機関に提出された磁気ディスクによる配列表
 - 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。
 - 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記録した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。
2. 請求の範囲の一部の調査ができない(第I欄参照)。
3. 発明の単一性が欠如している(第II欄参照)。
4. 発明の名称は
 - 出願人が提出したものと承認する。
 - 次に示すように国際調査機関が作成した。
5. 要約は
 - 出願人が提出したものと承認する。
 - 第III欄に示されているように、法施行規則第47条(PCT規則38.2(b))の規定により国際調査機関が作成した。出願人は、この国際調査報告の発送の日から1ヶ月以内にこの国際調査機関に意見を提出することができる。
6. 要約書とともに公表される図は、
第 4 図とする。 出願人が示したとおりである。 なし
 - 出願人は図を示さなかった。
 - 本図は発明の特徴を一層よく表している。

第III欄 要約 (第1ページの5の続き)

準備操作を行っておくことにより、クレーンによる着地・吊り上げ操作で底板を開放できる開閉制御機構を有する底開き式コンテナである。前記開閉制御機構は、開閉アーム(43)の外側に、連通シャフト(411)を中心に回転可能な操作カム(41)を設けたものであって、前記操作カム(41)が起きた姿勢の時、作動リンク(45)が吊り上げによって左方向へ移動しても、前記操作カム(41)が前記作動リンク(45)を支持するので、着地時に、前記作動リンク(45)が右方向に復帰した際、前記作動リンク(45)の先端部は段付き部(442)に載るが、前記操作カムを倒れた姿勢に変更すると、吊り上げ後、前記作動リンク(45)が右に復帰する際、前記作動リンクの先端側が落下し、次回吊り上げ時に、前記作動リンク(45)が前記開閉アーム(43)を開き方向に押圧して、前記開閉アーム(43)が係止ピン(13)から外れる機構である。

A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC))

Int. C17 B65D 90/66, 90/62
B66C 3/00

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. C17 B65D 90/66, 90/62
B66C 3/00, B65F 1/12

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1926-1996年
日本国公開実用新案公報 1971-2004年
日本国登録実用新案公報 1994-2004年
日本国実用新案登録公報 1996-2004年

国際調査で使用した電子データベース(データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

| 引用文献の カテゴリー* | 引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示 | 関連する 請求の範囲の番号 |
|-----------------|--|------------------|
| A | JP 3321145 B2 (中島 律雄) 2002. 06. 21 (ファミリーなし) | 1-2 |
| A | JP 11-343094 A (中島 律雄) 1999. 12. 14 (ファミリーなし) | 1-2 |
| A | WO 01/23280 A1 (中島 律雄) 2001. 04. 05 &AU 1999-59997 A | 1-2 |

C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献(理由を付す)

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

08. 01. 04

国際調査報告の発送日

27. 1. 2004

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官(権限のある職員)

倉田 和博 印

3N 9627

電話番号 03-3581-1101 内線 3360